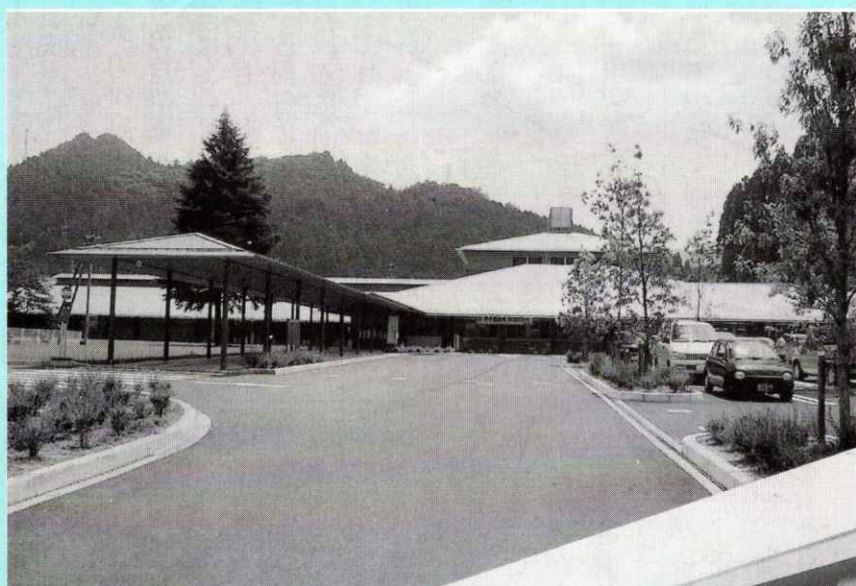


夜久野自治会だより

平成18年度

創刊号



おもな内容

夜久野町自治会長会発足……………	2～3
新しい福知山市になって(感想)	4
路線バスについて……………	5
防災特集……………	6～7
まごころ銀行……………	8

住んで良かったと思える地域に！
いきいきとした郷づくりの拠りどころ、
夜久野支所。
(支所関連記事は、3ページ、8ページにあります。)

夜久野町自治会長会 発足!

～心をひとつに力を合わせ

新しい郷づくり～

発足の経緯および趣旨

夜久野町の自治会長会（四十六集落）が、去る六月十二日の「ふれあいプラザ」と七月一日の「夜久野町地域公民館」の両日にわたり夜久野町自治会長会設立に向けて深夜に及ぶ議論の末、七月二日未明に賛成多数で夜久野町自治会長会が正式に発足しました。

ご承知のとおり、平成の大合併によつて、この一月に三和、夜久野、大江の三町を加え八万四千四百四十四人の新福知山市が発足しました。

合併に際しては、行政、議会を問わずあらゆる面で種々様々な協議が交されてきましたが、新福知山市における自治会の取り扱い、合併協議会の合併協定項目（自治会、行政区の取り扱いに関する事）の中で

①自治会組織については、現行のまま新市に引き継ぐものとし、地域コミュニティの維持、強化をはかる。

②自治会の名称は原則として現在の名称をそのまま使用するものとし云々（以下略）。

と確認されており、この自治会が旧福知山市域においては、長い歴史の中で市政運営で重要な役割を果たし

てきたことを、行政はもちろん自治会・住民代表の皆さん方からも高い評価を受けてきたところです。

夜久野町自治会長会では、一日も早く新市に順応し、夜久野町域はもとより旧三町の自主運営を確立し、新福知山市の発展に大いに寄与できる団体を目指すとともに、市長の方針である「特色ある地域づくり」に応えるためにも、今後の舵取りが極めて重要であるとの思いから、今まで以上に上・中・下の自治会組織の連携を密にし、一体となつて対処していくことが大切であると考え、このような組織を設立したところであります。

どうか皆様、本会は船出したばかりです。至らぬ点もあろうかと存じますが、温かいご支援と格別のご協力をよろしくお願い申し上げます。

具体的な活動

夜久野町自治会長会は、行政が進める地域・住民の生活向上のための諸施策について、その実現が具体化するよう協力するとともに、一方で、行政への提言や要望などハッキリ意見具申出来るための活動や事業を展開します。

①自治会組織の強化

・自治会長会及び役員会の充実

今まで以上に全体の自治会長会や役員会を開催し、自治会間の横の連携を図り、生活向上のための課題や懸案など対処方を相互に検討し、行政への働きかけなど問題解決のために努力していく。（要望の取りまとめ含む）

・「自治会だより」を年四回発行
自治会活動や行政の現状等をより理解して頂き、情報を共有して頂くため実施する。

②公民館の支援と共同歩調

旧夜久野町における公民館活動は行政主導であったが、現状では多くの支援を望めない状況にあり、自治会として住民自治と文化の向上、生涯学習の推進の観点から一定の支援を行うとともに公民館の自主活動の基盤づくりについて支援する。

③夜久野地域自主防災組織結成への支援

一昨年の台風被害を教訓に大地震や風水害、大火災への備えと地域内の連絡網の整備など自主防災組織の立ち上げについて行政からも要請されており、各集落等に対し早期に立ち上がるように支援する。

④河川清掃（草刈り）の事務支援等

「支所は廃止しない」と確約！

三町代表が高日市長と面談

七月二十八日、市役所において三町（夜久野町・三和町・大江町）の各代表自治会長と市長との懇談（市長側から市長・総務部長・総務理事が出席）、約一時間にわたって実施しました。

この懇談に三町の代表自治会長から次の二点について要望し、それぞれ市長から回答をいただきました。

三和・夜久野・大江の支所を廃止しないこと

『支所については昭和の大合併とは情勢が異なっていることもあり、廃止はしない。』

事務処理の迅速化及び支所への権限委譲について

『電算システムについては、十八年度中に検討する』とし、支所への権限委譲については、『京都府の振興局長（副知事待遇）でさえ、決済権限が壱千万円である。従って現状では考えていない』と回答されました。

最後に、今後ともこういった懇談会を随時開催されるよう要望したのに対し、市長は『今後も機会をつくりたい』と前向きな姿勢を示され、懇談会を終了しました。

上夜久野の《一日徴集日》十九年度も継続！！

7月10日（日）夜久野支所において、夜久野町自治会長会（会長）と市側（総務部長・総務理事）が懇談し、現在緩和措置として実施している「上地区の一日徴集日」を十九年度以降も継続されるよう申し入れ、おおむね了承されました。

旧夜久野町時代は建設課が夜久野全体の集落の事務手続き等を取りまとめていたが、引き続き自治会長会が行う。

⑤ プール監視員への支援

旧夜久野時代から三小学校のプールは一般開放されており、そのような中で監視員について行政から支援（賃金）がされていたが、合併後この支援が無くなったことに対し、教育・健康増進の観点から当分の間、激変緩和措置として一定の支援（補助金）を行う。

⑥ 旧三町自治会との連携

新市合併の理念の実現を図るため、旧三町自治会とも連携し、課題の解決に取り組んでいく。特に新市へ引き継がれた事業が早期に実現されるよう要望していく。

⑦ 子供の安全確保等

近年、子供を取り巻く環境は厳しく、全国的に何の理由もなく子供が被害者となる事件が後を絶たない憂うべき状況が広がっている。

このような社会状況を許さない立場で、夜久野の将来を託す子供達が安全で安心して育つ環境を確保していくため支援を行う。

（役員紹介）

会長	稲垣 司郎
副会長	安達 健
会計	植野 莊二
	植野 莊二

夜久野町自治会長会予算

《収 入》

(単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
借 入 金	50,000	会費徴収前借り入れ
会 費	900,000	600円×1,500戸
雑 収 入	0	
合 計	950,000	

(注) ・会費は、町内自治会所帯1戸あたり600円とし、徴収可能個数1,500戸とした。
・借入金は、総会までに要する運営経費として借り入れた。

《支 出》

(単位：円)

科 目	予 算 額	摘 要
会 議 費	30,000	総会費(年2回) 役員会費(年12回) 会計監査費
事務消耗品費	60,000	用紙 事務用品 写真 他
通信交通費	40,000	切手 郵便 電話 交通費
事 業 費	750,000	自治会だより(年4回) 各学区プール監視員補助 自主防災機材整備補助
返 済 金	50,000	借入金の返済
予 備 費	20,000	
合 計	950,000	

新しい福知山市になって



感想

日本一の福知山市に

新福知山市が誕生して半年になります。合併したからといって、私の日常の生活にはさほど変化はありませんが、行政と関わりのあることに關しては、不便を感じたり、疑問に思ったりすることもあります。

ところで、私は十数年前に夜久野に嫁いできましたが、私のように全く違った土地柄から嫁いでこれだけ環境や考え方の違いに戸惑いを感じられた方も多いと思います。しかし、自分からなじんでいくことで慣れていき、不安もなくなり、暮らし良くなっているのではないのでしょうか。けれども、今まで培ってきた自分というものも大切にしなければなりません。言うべきところは言うことも必要です。また、受け入れた側も今までの在り方を固持せず、柔軟に聞き入れる姿勢が必要だと思います。

合併もこれに似たところがあるのではないのでしょうか。お互いに歩み寄って理解・協力しあうことで、より良い暮らしを作っていくのではないのでしょうか。

新福知山市が誕生してまだ半年です。今後、市民と行政がさらに一つになり、福知山市を『日本一住み良い市』にしていけることを願っています。

(上地区 女性)

自治会長会に期待します

合併してより半年余り、一つ一つを計りにかければいくつかは良かったの答えもあるかも知れないが、総じて言えば「期待していた訳ではないが『ウーン!』」と言ったところでしょうか。しかし、考えを変えれば私達は、これまで旧福知山市民(但し周辺部)より恵まれた環境で生活してこられた証とも言えます。それらのことは、集落の集会で聞く自治会長の話や、他集落の自治会長さん達の話しの中からもうかがうことが出来ます。

旧夜久野町は、小さい自治体の長所を活かした細かいところまで目の届く町でした。そして、こちらからも親しみやすく話しのしやすい役場でした。今、自治会長さんは、大変苦勞されていると思います。自治会の思いを新市に聞いてもらいう為に、役所の考えを自治会の皆さんに伝達する為に。

そして、私達はこれまで以上に自治会長さんが頼りです。このことは、夜久野町のみならず三和町も大江町も同じことだとおもいます。これまで過疎の中で、懸命に生きてきた旧三町と旧福知山市の日の当たりにくかった周辺部の市民は連携して行動し市の全域に日の当たる新市になって欲しいと思います。新市初代の自

治会長さん方には大変だとおもいますが、一番大切な時ですの
でよろしく願います。

夜久野町自治会長会に期待し
発展を祈ります。(下地区 男性)

明日の夜久野を考える

平成の大合併で、日本地図が
大きく書き換えられました。交
付金減額を大上段に振りかぶる
政府の方針は、今後の日本を占
うようで、不安が残ります。

夜久野町も新福知山市となり、
七ヶ月を過ぎましたが、「合併
して良くなった。」と言った声を、
今まで聞いた事がありません。

合併協議会で検討を重ねて合
併に踏み切った以上、不平不満
を並べていても問題は解決しま
せんが、今後どう取り組んでい
くかが重要であります。

合併前から、ある程度のマイ
ナスは予測していましたが、フ
タを開けてみて、次々と旧夜久
野町時代と比較して不利な状況
が出て来ると多少のプラスはど
こかに吹きとび、悪い面ばかり
が一人歩きする傾向にあると思
います。

市街の中心から二十、三十キ
ロのハンデを持つ旧三町、中で

も夜久野の郷を住み易い町とし
て守って行く為には、行政とガ
ップ四つに組める組織が必要
であり、確実なデータをもッ
クに、相手を納得させる力が必
要になり、それが夜久野の自治
会長会であります。

自治会長の中には、多種多様
な職種の方々がおられ、まとめ
て行くのは大変な作業ですが、
時間をかけての組織作りが大切
であると思います。

その方法として、

(一)、旧三町の自治会長会が交
流し、中心地から遠い地方の
問題点を集約し、場合により
協力して解決にあたる。

(二)、旧市内の大きな自治会と
交流し、問題解決のノウハウ
と福知山方式を勉強する。

(三)、地方自治や行政に詳しい
講師を招いての勉強会を持つ。

(四)、支所の地域自治推進係に
相談し、場合によっては支所
長に働いてもらう。

等が必要ではないかと思えます。
今後、更に財政面での締め付
けが予想される中での自治会の
役割は、夜久野に対する重要な
鍵をにぎっていると思います。

自治会長会の今後の活躍に期
待し、応援して行く所存であり
ます。(中地区 男性)

乗ってバスを残そう

＝福知山市営バスの夜久野線を＝

福知山市では、平成十八年度重
点施策の一つに「バス交通対策」
を挙げています。

マイカー通勤の増加に反比例し
て、市営の路線バスの利用者が年々
減少する状況において、何らかの
手立てを講じなければ路線本数の
確保が難しいとされています。

住民ニーズに対応した交通のあ
り方や公共交通において、地域の
実情に応じた輸送サービス・範囲・
形態などを検討するという内容に
なっています。

合併による旧三町の市バスは『地
域住民の生活に密着したバス路線
を確保する』としていますが、地
域の利用が低下し続けるなら、何
時までも現状の運行形態を保証で
きるか判らないため、地域での利
用度を上げてほしいとの声が強ま
っています。

過疎と高齢化が進む夜久野地
域の路線バスを残すために、現状
の問題点を明らかにするとともに
地域住民の利用を高め「地域の利
用者で作る利用しやすい地域交通」
の実現を目指しましょう。

《参考》

平成十二年から平成十七年のバス
利用状況は下表のとおりです。

夜久野町路線バスの利用状況

路線名	運行回数(回)		年間運 行日数	路線利用者数(回/日平均)人					
	平日	土曜		H12	H13	H14	H15	H16	H17
板生・千原線	5	5	294	9.6	10.0	8.8	8.6	8.0	7.6
直見線	6	6	294	15.3	15.3	14.7	13.2	12.2	11.7
畑線	6	6	294	9.2	7.0	5.3	4.8	4.5	5.7

※始発から終点の間に利用された人数であり、路線利用密度で考える場合は
上記の約20%程度の利用となる。(利用密度：5人が採算分岐点といわれる)

私たちの生命・財産を災害から守るために 自主防災組織づくりへ！

なぜ自主防災組織が必要か

平成七年の阪神・淡路大震災、平成十六年の新潟中越地震や台風二三号などのような大きな被害が発生した場合、行政等防災関係機関が災害復旧活動を行います。初期段階ではその活動も大きく制約されます。

このようなときに、地域住民が団結・協力して被害を最小限に軽減するための取組みが不可欠となります。

特に、避難を要する場合、迅速な対応ができるか否かによって命に関わる事態を招くことにもなりかねず、地域の自主防災組織の早期結成が望まれることになるのです。

ではどのようにすればよいのか

地域の自主性を尊重しながら、防災に関する知識や情報を積極的に提供し、皆で話し合ってどうするか相談することが大事なことになります。そのうえで、地域の自主防災対策や組織づくりを進めることが大切です。

そのために、福知山市では「自主防災組織育成補助事業」が制定されており、これの活用も

役立つこととなります。

(別表参照)



避難する場合はどのようなときか

福知山市では、住民に避難を促す場合は、次の三段階の合図をすることとしています。

① 避難準備

雨が長く降り続いたときで、洪水や土砂崩れなどの被害が近く想定される段階で、お年寄りや移動制約者などが、自主的に早く避難するようなときに発令されます。

② 避難勧告

さらに一時間降雨量が五〇ミリ以上となり、洪水や土砂崩れの危険が迫ってきたときに住民が避難するような発令されます。

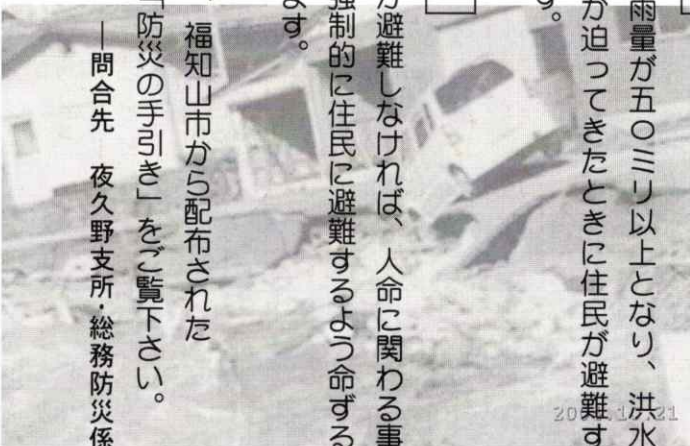
③ 避難指示

危険地域の住民が避難しなければ、人命に関わる事態となる場合、強制的に住民に避難するよう命ずるときに発令されます。

※詳しくは、福知山市から配布された

「防災の手引き」をご覧ください。

— 問合せ 夜久野支所・総務防災係 —



福知山市自主防災組織育成補助事業

1. 防災資機材整備の補助・・・事業費の1/2を補助（限度額 50,000円）

但し、補助金の交付は1回限りです。

①情報連絡用機材、②初期消火用資機材、③水防用資機材、④救出用機材、
⑤救護用資機材、⑥避難誘導用資機材、⑦給食給水用機材、⑧その他資機材

2. 防災組織活動の費用・・・活動費の1/4を補助（限度額 14,000円/年）

①啓発活動費、②保険料、③事務用消耗品、④研修費

3. 申請に必要な帳票

①事業計画書・・・・・・第1号様式（添付：規約、組織図、予算書等）

②補助金交付申請書・・・・第2号様式（添付：口座届）

③事業実績報告・・・・・・第3号様式（添付：交付決定写、資機材写真、領収書写等）

福知山市…自主防災組織の結成状況

（平成18年4月現在）

地 域	自治 会 数	(H16年) 台風23号 以 前	(H16年) 台風23号 以 後	計
南 陵 中 学 校 区	60	4	22	26
桃 映 中 学 校 区	28	2	7	9
成 和 中 学 校 区	40	6	11	17
日 新 中 学 校 区	24	2	6	8
六 人 部 中 学 校 区	26	2	7	9
川 口 中 学 校 区	26	2	11	13
北 陵 中 学 校 区	8	1	1	1
三 和 中 学 校 区	21	0	0	0
夜 久 野 中 学 校 区	46	0	0	0
大 江 中 学 校 区	46	0	0	0
合 計	325	19	64	83

1年間よろしくおねがいします <各集落自治会長>

上田陽一（門垣）	夜久喜市（小倉）	中川一雄（大油子）	西川紀光（高内）	足立一幸（末）	植野莊二（日置）	足立隆一（下千原）	山中和清（中千原）	足立善彦（上千原）	稲垣司郎（向）	水谷均（奥）	水谷憲生（且）	青山修（上町）	日下忍（下町）	衣川勝治（井田）	石原健治（今西中）	森澤晴男（小畑）	片山四郎（桑村）	越後勲（西谷）	片山貞紀（金尾）	永井勲（稲垣）	上山正志（柿本）	新宮春雄（今里）
塩見正紀（夜久野）	居合善八（奥水坂）	中田武紀（駅前）	田中和夫（水坂）	杉森良雄（水上）	森山龍彦（平野）	松山五良三郎（田谷）	安橋一成（今西）	森川強志（現世）	萩原辰美（田谷垣）	藤本重信（羽白）	荒木忠司（三谷）	衣川義広（上町）	松本良明（中田）	衣川豊（才谷）	高瀬勝（栗尾）	井上定（宮垣）	衣川秀正（西垣）	中島良之助（桑谷）	田村初男（大峠）	衣川義文（金谷）	衣川靖雄（山中）	安達健（副谷）

新まごころ銀行 発足にあたり

夜久野ふるさと基金（通称まごころ銀行）は、香典がえし廃止による浄財や篤志寄付によるもので、旧夜久野町社会福祉協議会のまごころ銀行の事業、活動を継承し、夜久野地域の福祉文化及び自治活動の支援を通して夜久野地域の「ふるさとづくり」の発展に寄与するために使用させていた。だくこととし、自治会、公民館、学識経験者による運営委員会が設立され、規約運営要項等を整備し発足しました。

つきましては、事務所を下夜久野公民館に置き、上中それぞれの公民館でも受付を行います。また、各公民館及び公民館主事宅で香典がえし廃止等のハガキと案内看板を取り扱っておりますので、ご利用下さい。

なお、香典がえし廃止のハガキは一枚十円となっております。

夜久野支所の職員さん頑張っています！

七月二十八日勤務終了後、夜久野支所勤務の職員さんたちが刈り払い機・燃料など持ち込んで、支所周辺の草刈などをボランティアで行われました。（六月に続き二回目です）。自治会としてもエールを送り支所を心の拠り所にしたいと思っています。これも自主運営の一環かも！

まごころ銀行

まごころ銀行
篤志ありがとうございます。

☆平成十八年四月

亡父供養 石田 逸博様（留町）
亡妻 " 衣川 隆雄様（末）

☆平成十八年五月

亡父供養 衣川 重之様（今西中）
亡妹 " 衣川 隆和様（今西中）
亡母 " 西原 健一様（向）

☆平成十八年六月

亡母供養 森 正文様（柿本）
亡父 " 清水 志郎様（中田）

☆平成十八年七月

亡父供養 日和 恭一様（山中）
亡妻 " 稲垣 一馬様（向）
亡母 " 衣川 千代子様（井田）
亡母 " 稗田 均様（門垣）

このメンバーで今年一年、自治会だよりの編集を担当しますのぞくしくお願いします。

編集委員長 杉 森 良雄
編集委員 植 野 司郎

" " " " " "
衣大月日安植稲杉
川本見下達野垣森
幹夏一 莊司良
彦代正忍健二郎雄

夜久野町の人口は 平成18年7月末日現在

☆人 口 4,643人 (-103人)
(男) 2,180人 (-46人)
(女) 2,457人 (-57人)

☆所帯数 1,665戸 (0)
()内は昨年同期

編集後記

七月三十日、平年より十一日も遅くようやく梅雨が明けました。これは、史上四番目に遅く梅雨入り後の降水量は例年の1.5倍とか、日照不足も加わり農作物への悪影響が懸念されているところです。

一方、明るい話題もありました。福知山成美高校の甲子園出場の快挙は、府北部に住む私達に夢と元気を与えてくれました。（校長先生と部長先生は夜久野在住の方です。）

さて、「夜久野自治会だより」の創刊ですが、なにしろ初めての試みなので私達編集委員一同なにから手をつけたら良いやら文字通り手探りの状態からスタートしました。そんなこと出来るのか、といったご心配の声も聞きました。

表紙の写真は写真クラブのお力を、住民の皆さんの声の欄は投稿のご協力やご支援に支えられてつたない紙面ですが第一号の発行にこぎつけました。

何よりも助かったのは、公民館職員さんの助太刀でした。夜久野町に密着した内容と、新しい町づくりへの展望が持てるような紙面づくりに務めて年間四回の発行を予定しています。皆さん方のご協力やご支援を心からお願い申し上げます。